

8月の園だより

令和7年7月17日
杉並区立西荻北子供園
園長 須田 なぎさ



「一緒に感じる」ひとときを大切に

園長 須田 なぎさ

12日のこどもえんまつりでは、PTA お祭り係の皆様が中心となり、心のこもった準備を進めてくださいました。ありがとうございました。そう組もみんなで力を合わせて素敵な屋台・ゲームコーナーを作ることができました。おうちの方々と一緒に各コーナーを回り、「西荻北音頭」を踊るひとときは、子どもたちもおうちの方も笑顔いっぱいの楽しい会になりました。まつりの後、「おまつり、たのしかったね。」「うん、たのしかったね。」と語り合う子どもたちの表情に、一緒に過ごす時間の大切さを改めて感じます。

園庭の花壇では、夏野菜たちがぐんぐん成長しています。今年は、ミニトマト、トマト、オクラ、キュウリ、ナス、ピーマン、トウモロコシなど、学年ごとに植えました。子どもたちは、花の下にできた小さな実を見付けたり、色付していく様子を見たりすることを、毎日楽しみにしています。ふさふさしたトウモロコシのヒゲを見て、「ここにトウモロコシができるんだね。」と気付いたり、「お水をあげないと！」と願いを込めて水やりをしたりする姿には、ワクワクがあふれています。収穫した野菜たちは、買ってくるものとは全く違う特別なもの。「トマトは嫌い！」と言っていたお子さんも、自分で育てて収穫したトマトは魔法がかかったように、口にすることことができた子もいたようです。



花壇では、虫たちとの出会いもあります。虫が好きな子は、ダンゴムシがどこにいるかを知っていたり、「この虫なんだろう？」と好奇心から図鑑で調べたりしています。名前や食べ物、成虫の姿など自分から学ぼうとする姿が頼もしいです。

普段通る道にも、たくさんの自然があります。子どもが立ち止まると、大人は先に進もうとしがちですが、その心の動きを逃さず、一緒に面白がってみることで、子どもの興味や関心はどんどん広がっていきます。「これは何？」「どうして～なるの？」という子どもの問い合わせには、正しい答えよりも、「こうなるかな？」と一緒に考えたり、「え～、よく気が付いたね！ どうしてだろうね？」と驚きを共にしたりすることで、興味・関心が深まります。

自分で見付けたこと、気付いたことは心に残り、知識として身に付いたり、豊かな感性へと育ったりします。繰り返していくうちに、物事を予測したり仮説を立てたりする力にもつながり、「もっと知りたい」という気持ちが、「学び」の原動力になります。これからも園では、子どもたちが直接体験し、感動を積み重ねていかれるよう、自然環境を整えてまいります。

7月19日から夏季休業日が始まります。※グループは長いお休みに入り、★グループは、夏の生活になります。風、光、影、水たまり、雲の動き、月の満ち欠け、虫の音、雷の音等、夏は五感が輝く季節です。大人も子どもも、一緒に夏を感じ、同じ空気を吸い、同じ景色を眺める～～～そんな時間が、親子の絆を深めてくれます。

この夏も、たくさんの「一緒に感じる」ひとときを、大切にお過ごしください。

